へ13 特
1178
57
へ13 特
1178
58

へ 13
1178
57

1178
57

たゝぬひ譚 上

九編の巻

柳下亭種員作

梅蝶樓國貞畫

廣岡屋梓

たゝぬひ廿九ゑん

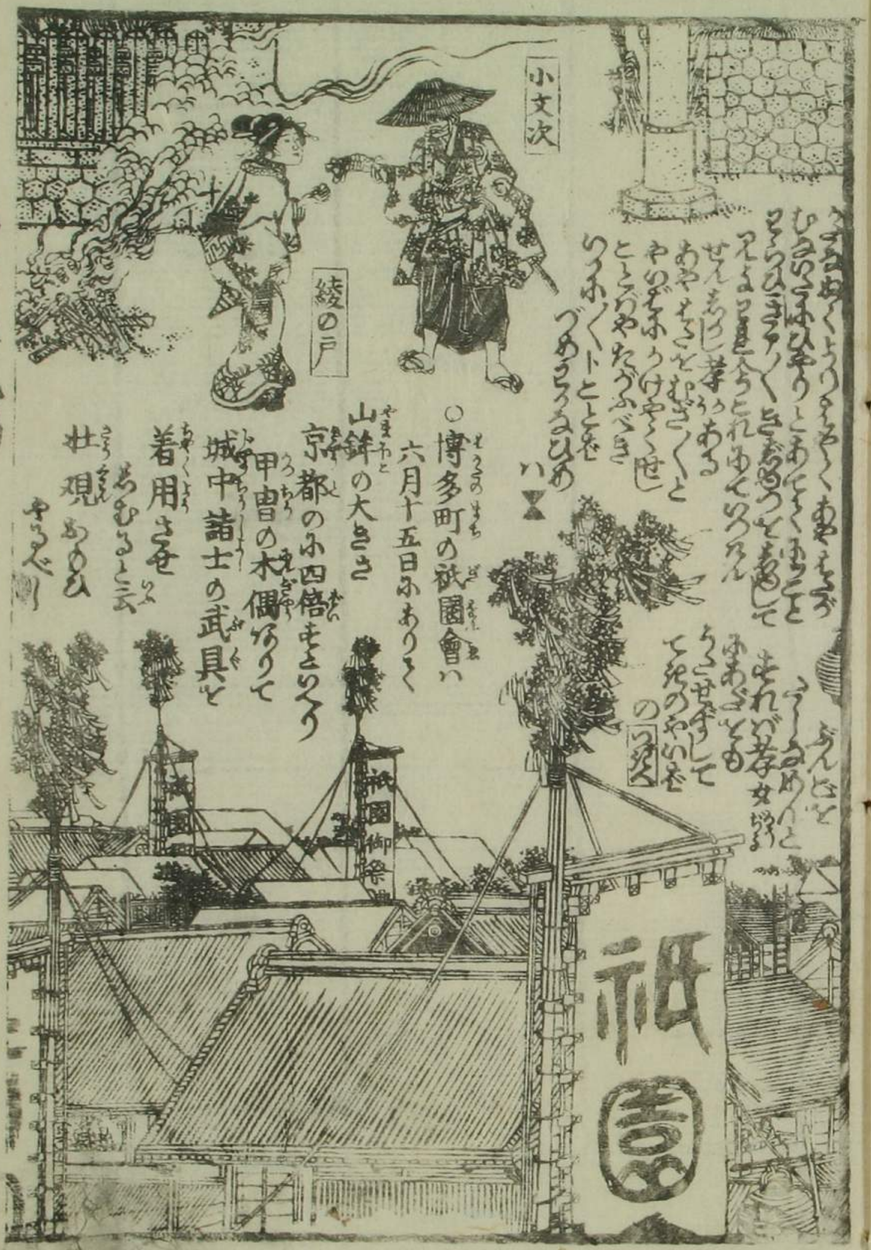
たゝぬひ

始あれば終あり故ふ生者必滅といへど北州の千年も槿花一日あるゑ無量壽佛といふ如来有ハ凡夫ふおいそ合點ゐるゑど今流行の合巻繪草紙も始ありて終ゑるさが多く沽ゑ多なれバめでたゝふ早く結が當時の習俗此白縫も繪と閑と製本の美のが評判とゑり作者も命ふ換るそど骨を惜まぬゑ有て彼無量壽ふ算られ當々滅多ふめぐさゝに逢ぬハ嬉ゝ久長命多壽かゝる御贔員の手前でも懶惰られぬ夜を日ふ継ぎ寝る間も稼て種本を少かゝず積畜あげバ反やく今戸の畑ハたゝぬ日有とも隅田堤花櫻材ふ刊ゝゑハ無量壽ゑりと安心を決め悠ゝ貴觀を希ふまのん

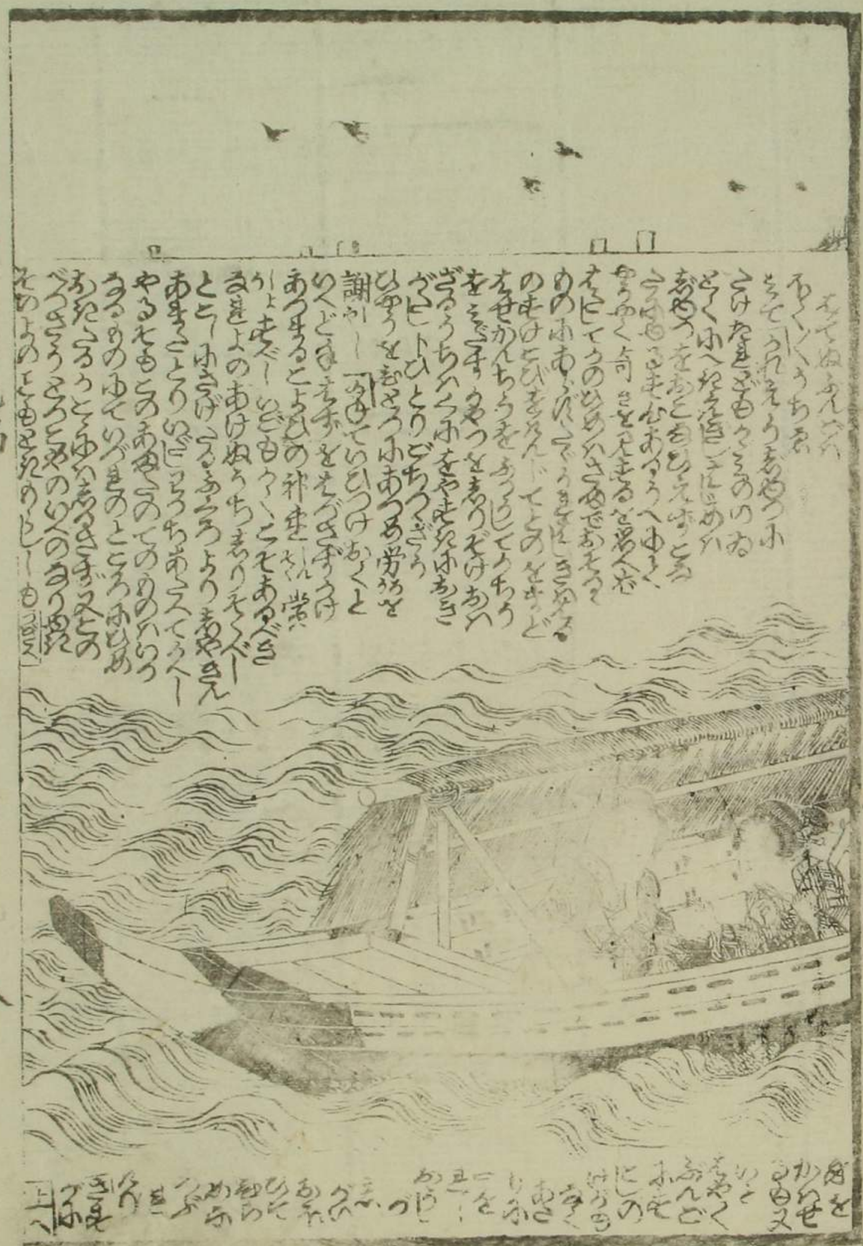
亭号ハ面ふりゝせく　種員敬白

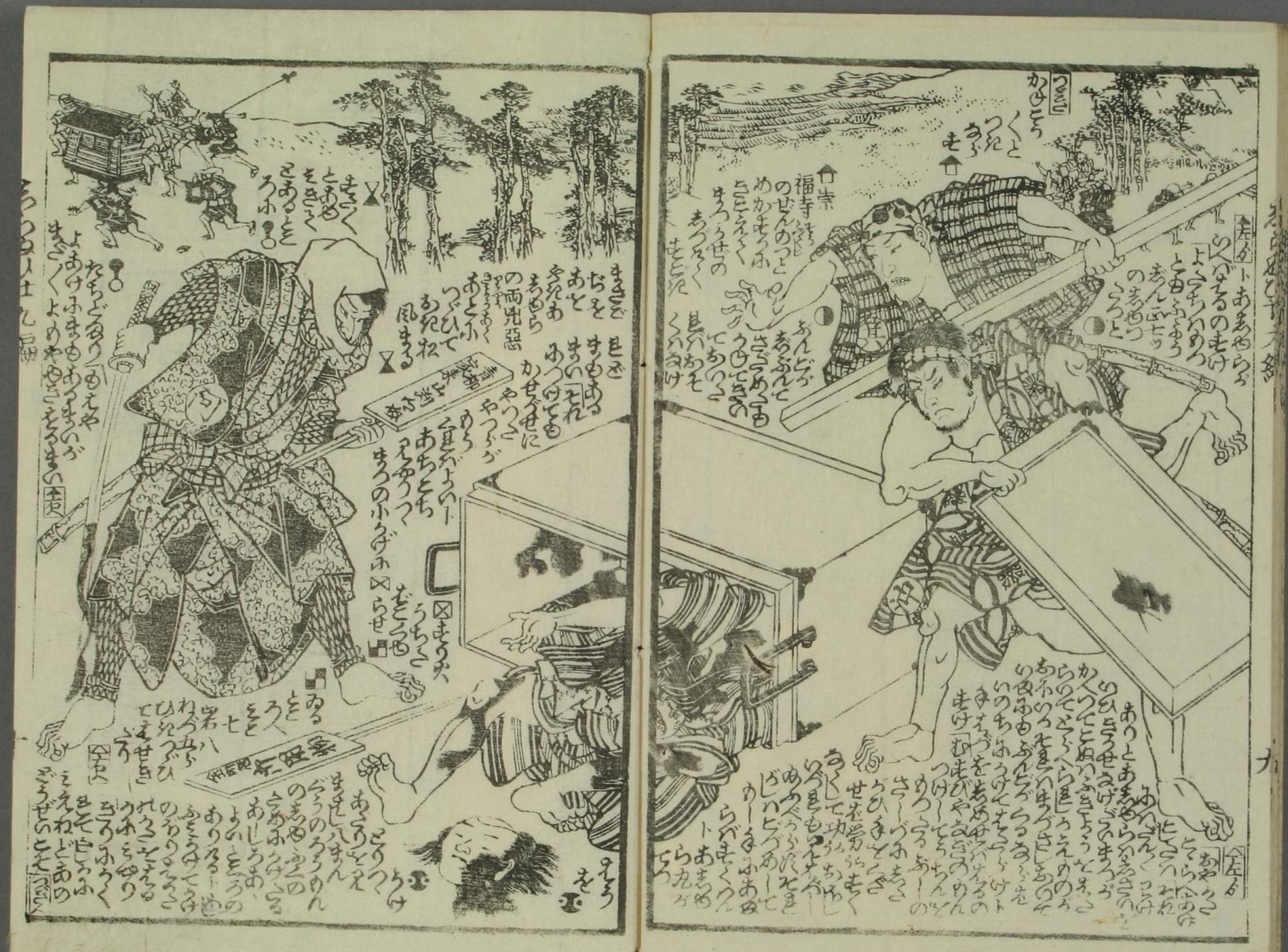
やらぬ八十九編
紅葉院現住安養
青柳春之助年正
菊池寛妻英浦
初名
薊又
花木
數馬
とも
いふ
豆國

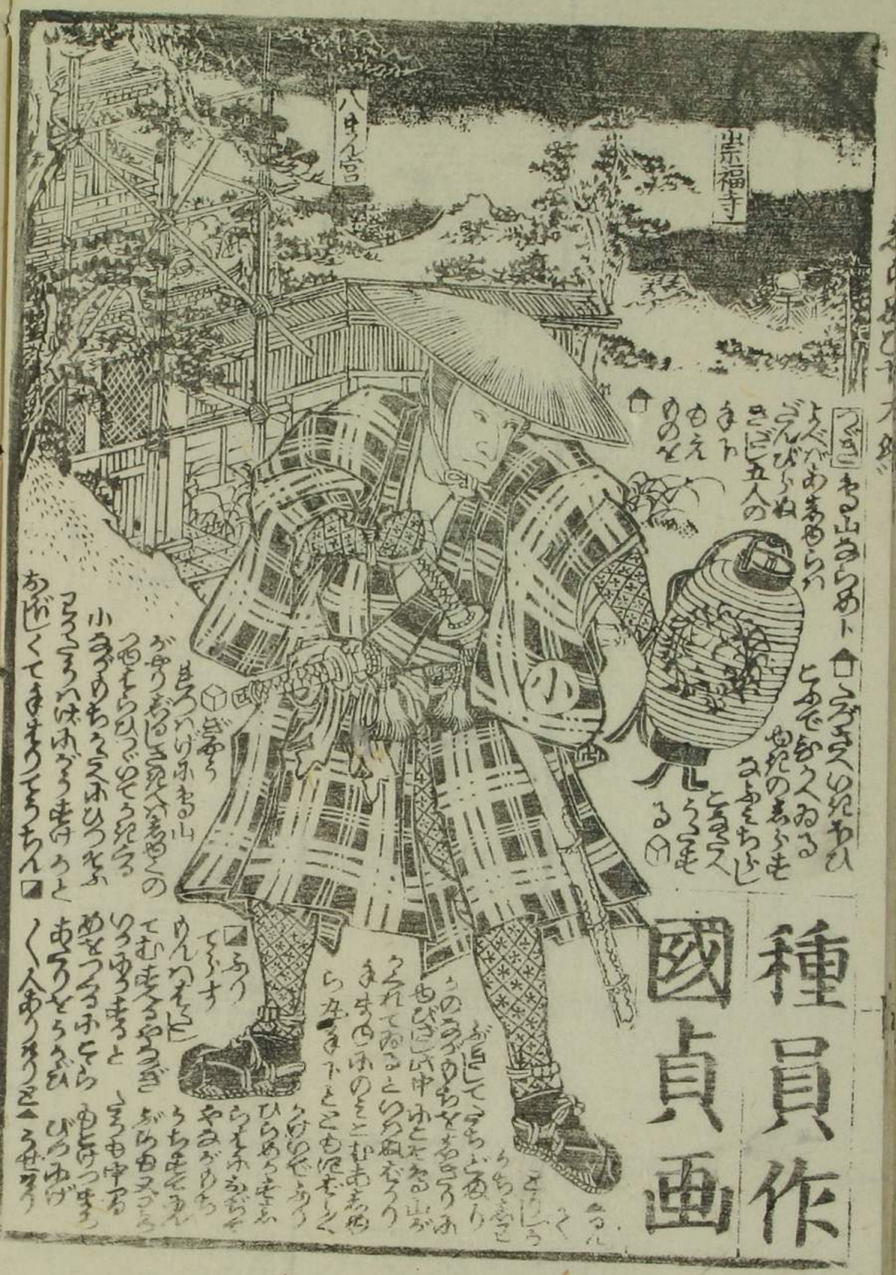
女丈夫



○博多町の祇園會ハ
六月十五日ふあり〳〵
山鉾の大きさ
京都のふ四倍もさのうち
甲冑の木偶なりて
城中諸士の武具と
着用さを
壮觀あり







志つぬひ彈

中編三冊 一惠齋芳藝画

兩面織花田物語

前編三冊 中編三冊 後編三冊 作 同 画

假名淺八大代記

下編五冊 假名垣魯文編 三冊 朝倉屋藤次郎 画

古今雅陵 似顔大入王

故豊國 翁筆

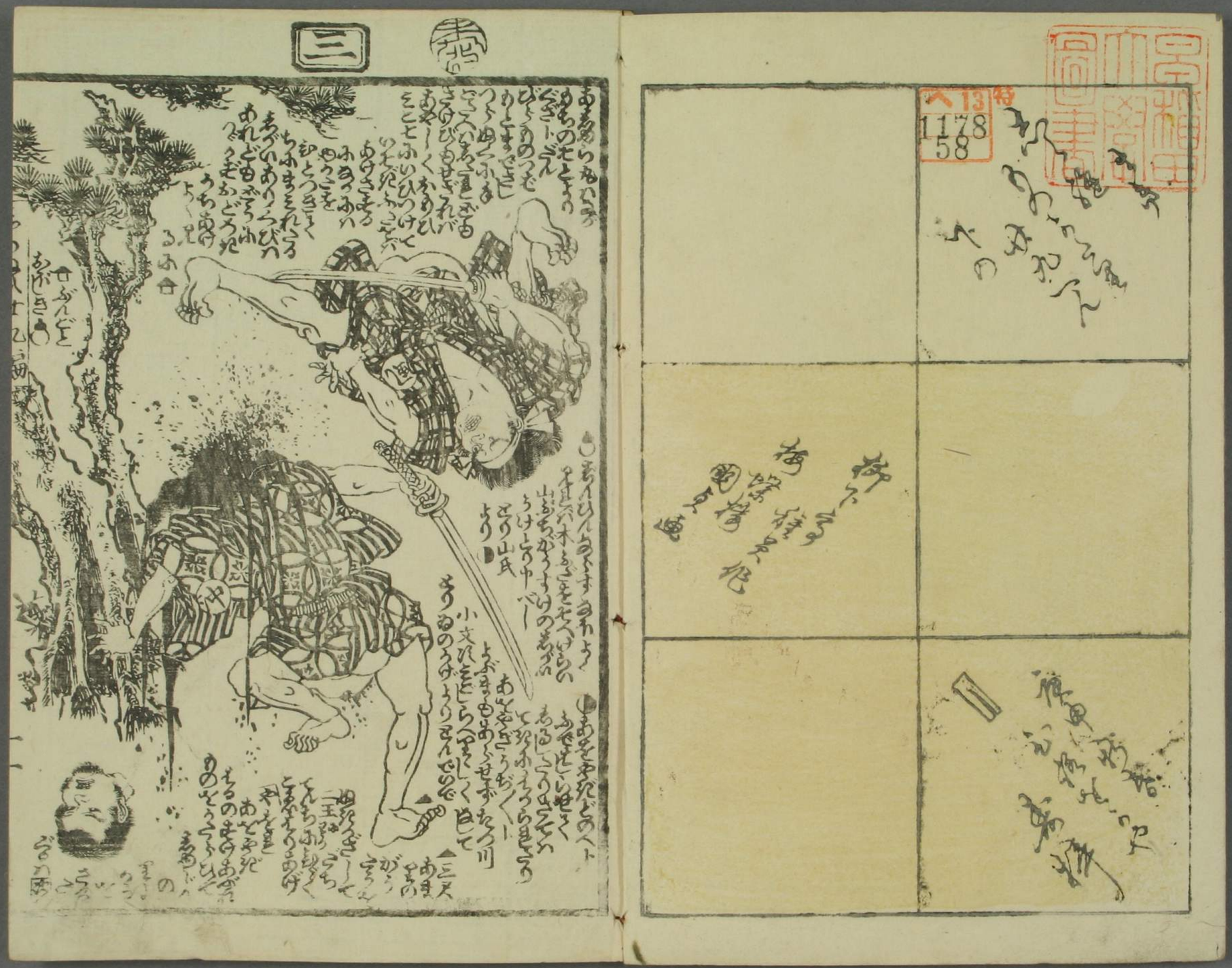
天錦 白二冊

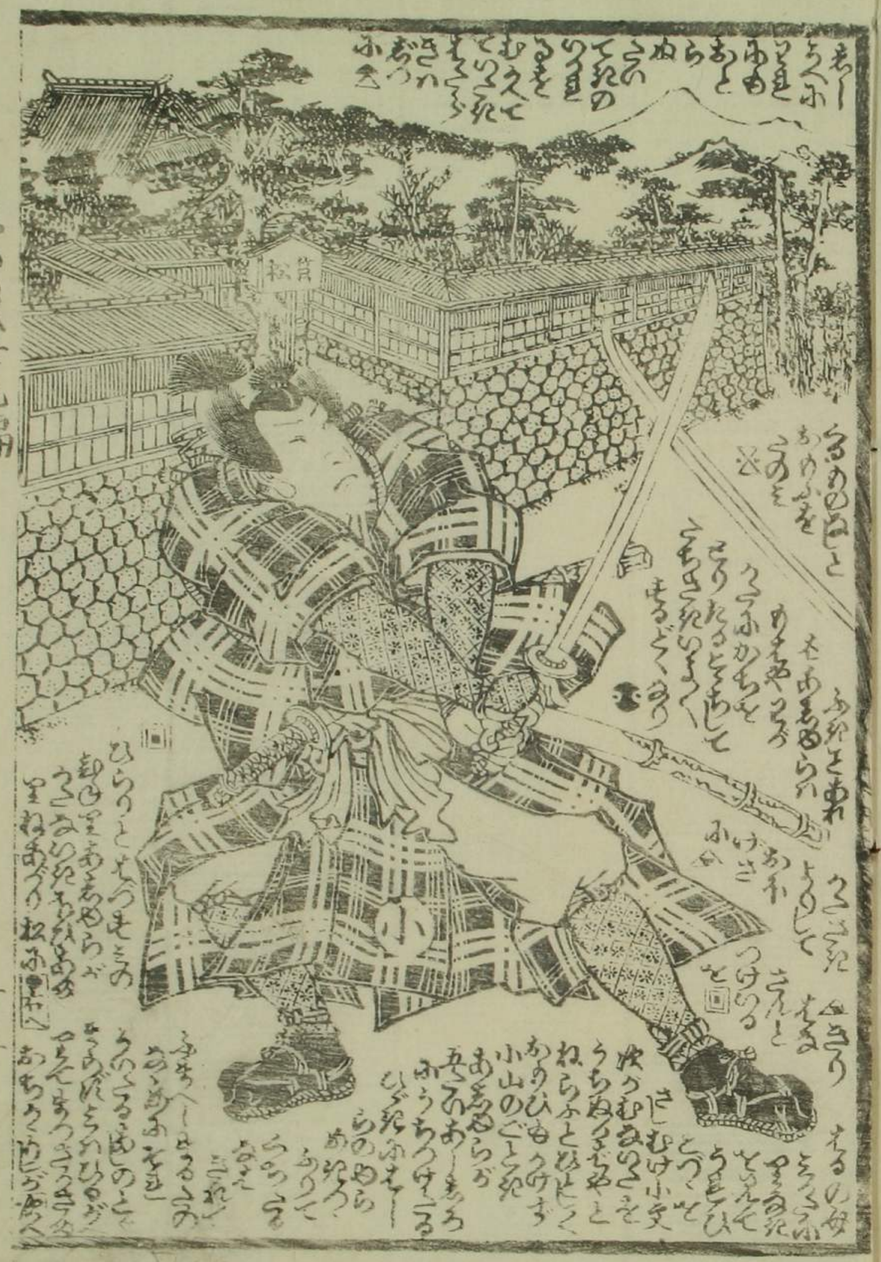
太平記英勇傳

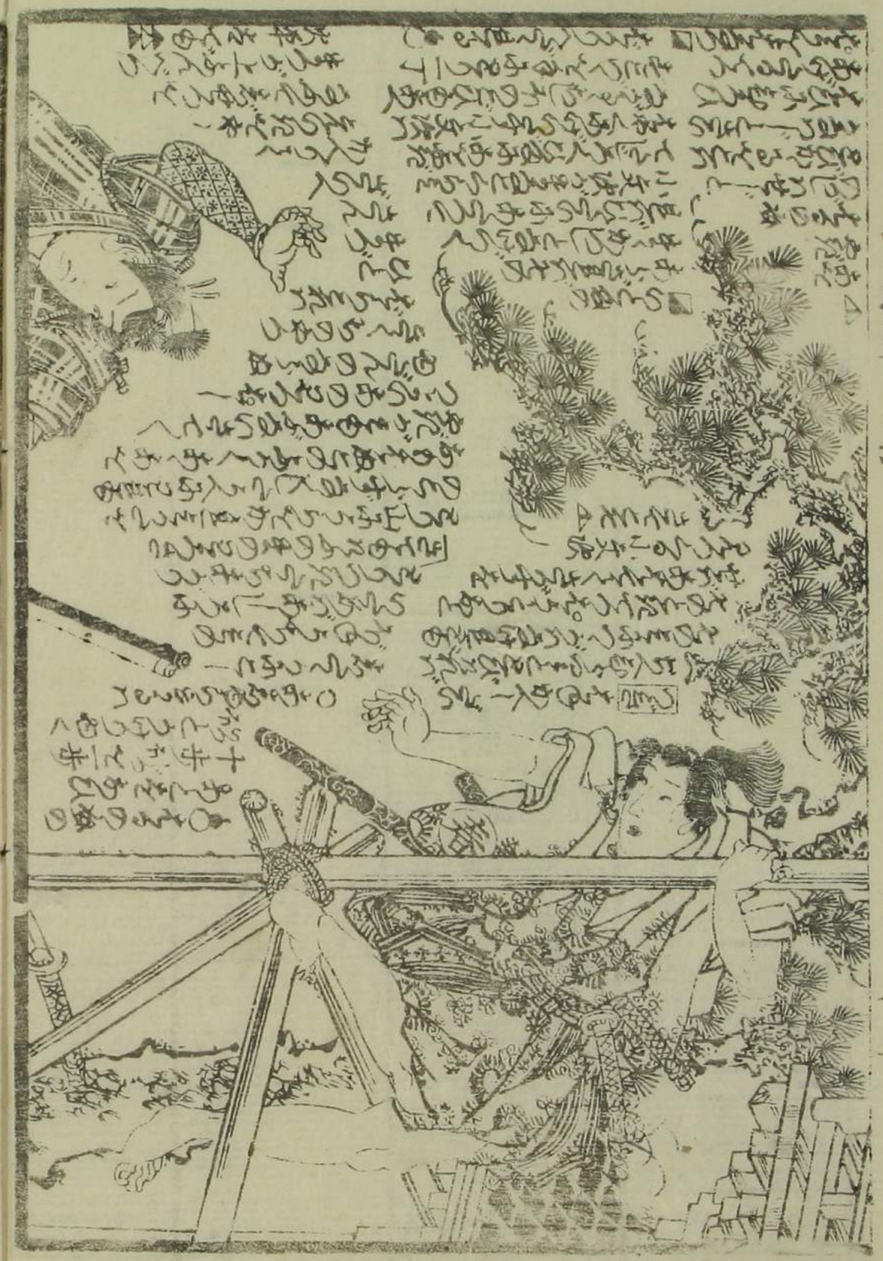
中 錦山々人作

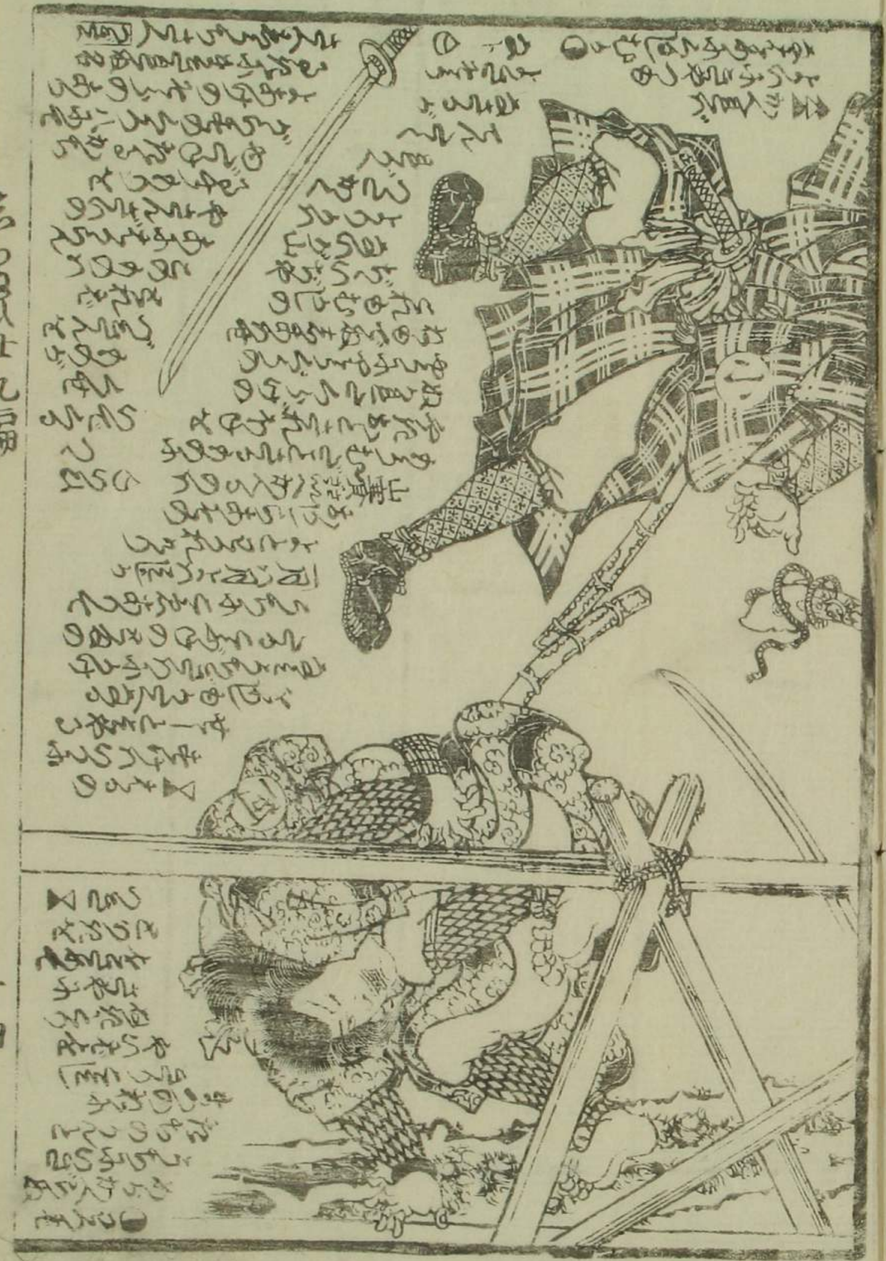
白井孝 由 画

特
へ13
1178
58





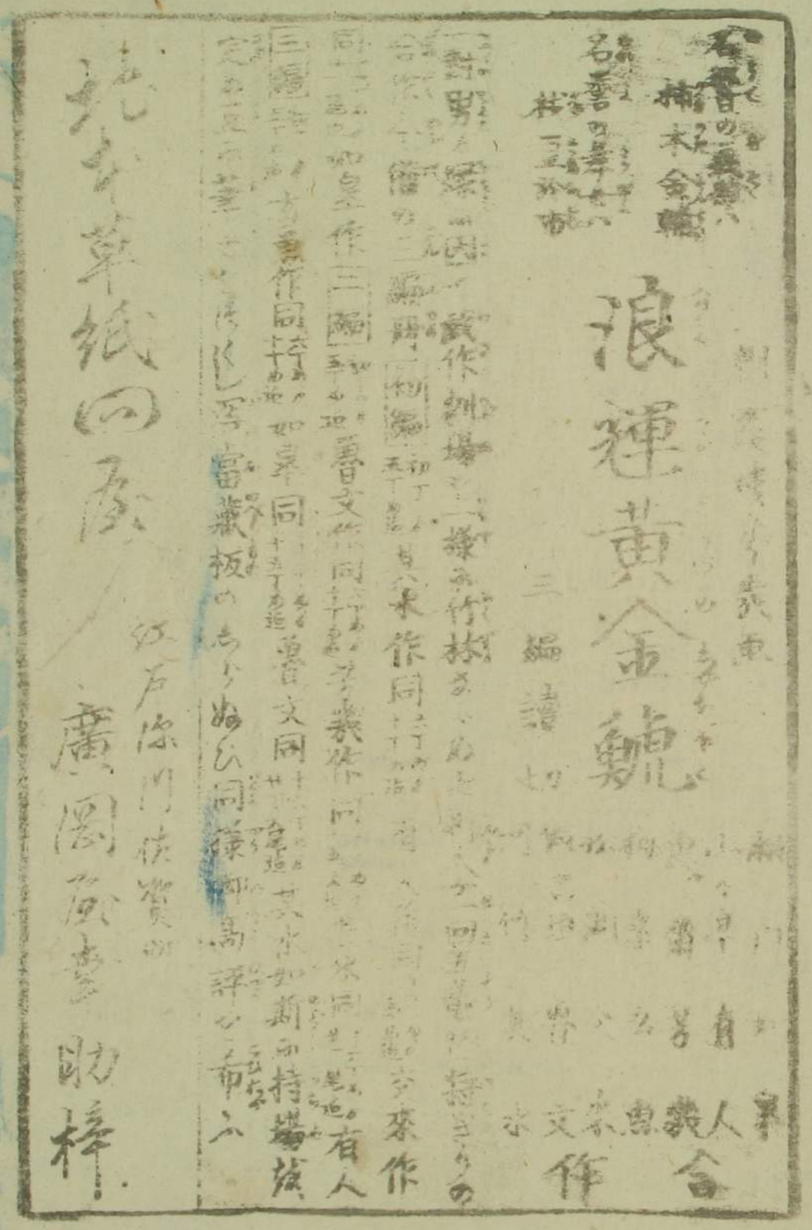
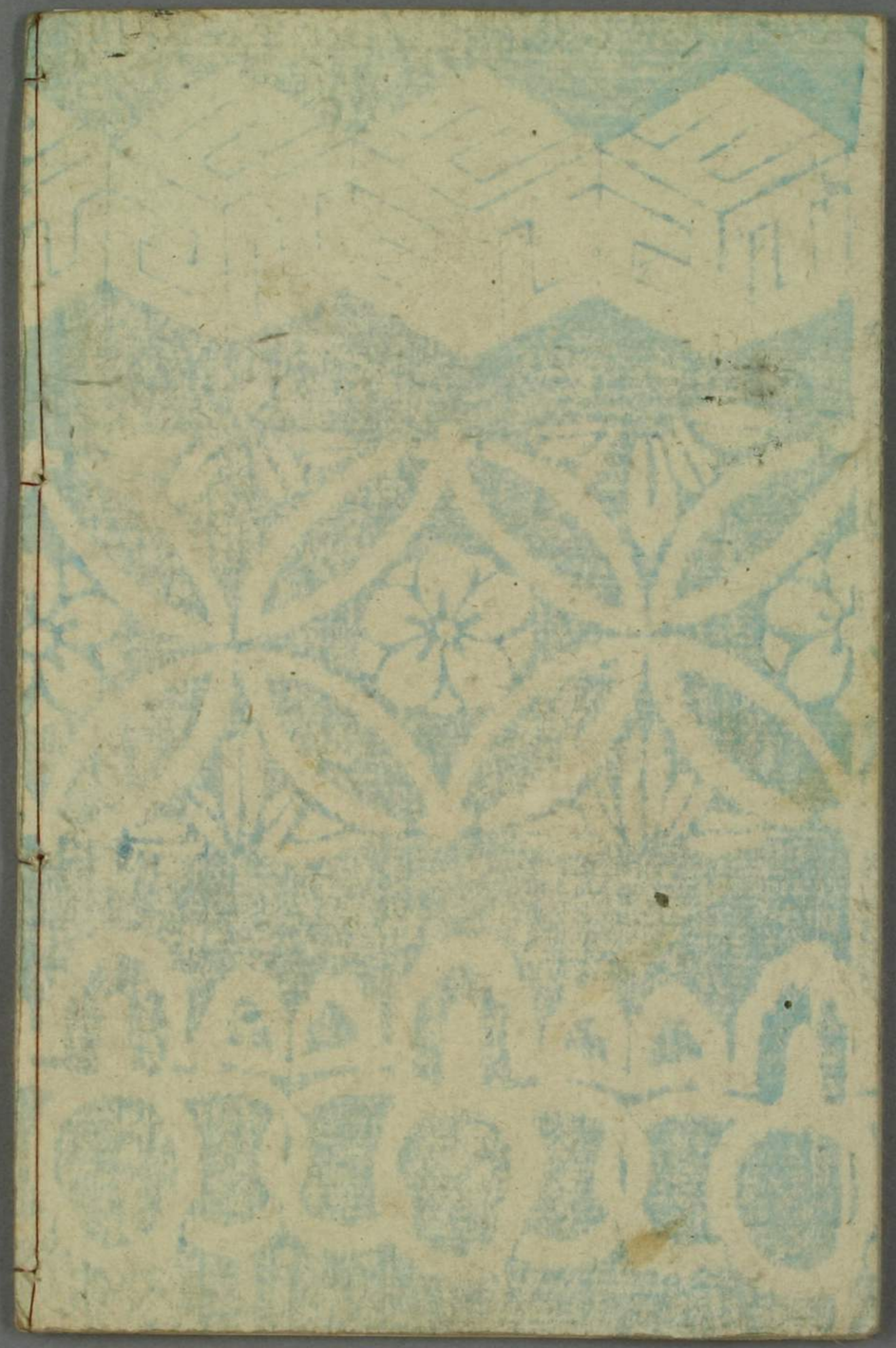




三の巻

梅

柳下亭種員作
梅蝶樓国貞画
笠山上坂
三十編ハ載ス
儒書文來


浪華黄金鶏
三編
文來作
廣岡風雪助梓